

環境王国対馬へのスタディツアー-実施報告書

平成 25 年8月 26 日

宇部市地球温暖化対策ネットワークでは、宇部市及び宇部市交通局と共催で、環境王国であり国境の島である対馬市(長崎県)に親子で学ぶスタディツアーを催行し、「ツシマヤマネコの棲む森林に学ぶ生物多様性」や生き物の繋がりを学習すると共に、自然と触れ合ってきましたのでその概要を報告致します。

- 日時 :平成 25 年8月 20日(火) 7:15 宇部市役所玄関前出発
22日(木) 18:00 宇部市役所玄関前帰着
- 参加者 :16名+スタッフ5名+市職員 2 名 (合計23名)
- 参加費 :保護者 : 20,000 円/子供 :14,000 円
- 主な見学先 :長崎県立対馬歴史民俗資料館、舟志(しゅうし)の森(ヤマネコ痕跡調査)、舟志の森自然学校、対馬野生生物保護センター(略称:ヤマネコセンター)、棹崎公園海岸(漂着ゴミ調査)、韓国展望所、万関橋(まんぜきばし)

【ツアー概要】

8月 20 日(火)

宇部市役所前を出発する前に、出発式を行い、白石市民環境部長及び宇部市地球温暖化対策ネットワークの仰木事務局長の挨拶と激励の言葉を受けました。その後参加者一同で記念写真を撮り、7時 15 分に宇部市営バスにて山陽自動車道・九州自動車道・都市高速を経て、一路博多港へ。車中ではNHKの『ダーウィンが来た!』のDVDを上映し、事前に全員でツシマヤマネコの勉強を行いました。



厳原港での対馬市役所の出迎え風景

対馬市役所内にて昼食後、早速、市役所の近隣に建つ長崎県立対馬歴史民俗博物館を見学して、江戸時代に領主であった宗氏や朝鮮通信使に関する文物について学びました。また、元禄時代に書かれた対馬絵図の正確さに驚かされました。



博多港から対馬の厳原(いづはら)港まで、2時間 20 分。穏やかな天候に恵まれて、揺れも殆どなく、快適な船旅が楽しめました。厳原港では対馬市役所・自然環境推進室の皆さまの歓迎を受けました。



長崎県立対馬歴史民俗資料館



展望台で 360 度の景色を楽しむ参加者

宇部からバスで2時間、高速船で2時間、更にバスを2時間と乗り継いで、ようやく島の北端に近い比田勝(ひたかつ)港近辺に位置する宿舎(花海荘)に到着。旅装を解いて、夕食の場では、第7回「B-1 グランプリ」に、初出場して、「シルバーグランプリ」を獲得したという『対馬とんちゃん』やボリュームたっぷりのスペアリブ、そしてサザエなどの海鮮物などのバーベキュー料理に舌鼓を打ち、時を忘れて歓談が続きました。

国道 382 号を北上し、宿舎に向かう途中、島の中央付近に位置する烏帽子岳(えぼしだけ)展望台に立ち寄って、海に浮かぶ大小無数の島々やリアス式海岸の美しい浅茅(あそう)湾、そして遠くに幾重にも山々の重なる 360 度の展望を楽しみました。



宿舎のテラスでのバーベキュー料理

8月21日(水)



舟志の森で説明に聞き入る参加者

ツシマヤマネコの生態研究に関して、NHKの番組『ダーウィンが来た!』に出演した環境省の茂木(もてぎ)さんから直接、生態の観察の方法や、自動カメラの仕組みについて教わりました。

ツシマヤマネコは国の天然記念物に指定され、哺乳類レッドリスト*¹において絶滅の恐れが最も高い絶滅危惧 IA 類(CR)*²とされています。舟志(しゅうし)の森において、地元のボランティア団体がそのツシマヤマネコの棲みやすい環境作りを行っており、その苦労や成果についてのお話を聞かせて頂いたところ、子供たちから活発な質問が飛び出しました。

*1:環境省が公表した哺乳類の絶滅危惧の度合いを評価しリストにまとめたもの

*2:ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

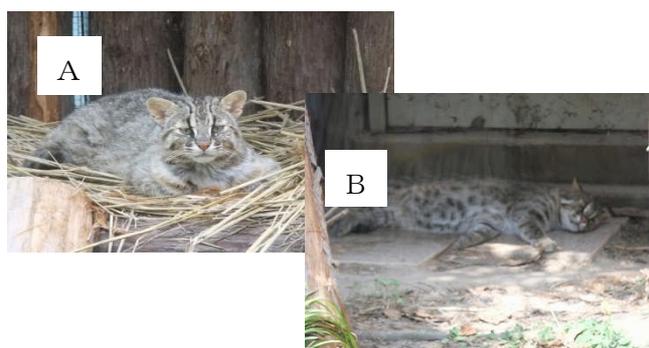
茂木さんの説明に納得する子供たち





痕跡調査をする小学生と
ふんを指さす環境省の茂木さん

対馬野生生物保護センターでは、普通のネコとツシマヤマネコの違いを詳しく教えて頂くと共にツシマヤマネコが恋(繁殖)をし、餌を捕り、休み、そして子育てをして、安心して暮らせる森というのは私たちにとっても、他の色々な動物たちにとっても大切なものであるという事を教えて頂きました。



ヤマネコセンターで飼育されているツシマヤマネコ

ツシマヤマネコの痕跡調査では、23名の参加者全員が、ヤマネコの足跡を探して、けもの道や沼沢の周りを探索しましたが残念ながら見つかることが出来ませんでした。

しかし、参加した小学生の一人の男の子が「これは？」と聞いたものが、ヤマネコの『ふん』だと教えてもらい、やっと見つけたヤマネコの痕跡に大喜びしました。



ヤマネコセンターでツシマヤマネコの説明を
聞く小学生

対馬野生生物保護センターでは、ヤマネコの「福間(ふくま)君」が飼育されており、野外ではめったに見る事ができないという本物のツシマヤマネコを見る事ができました。しかしながら、残念なことに左の写真(B)の如く、暑さのためか午睡の最中で、5月に事前調査した時に撮影した時(A)の様な姿をカメラに収める事はできませんでした。

棹崎(さおざき)公園海岸は島の北部の西側にあり、潮の流れにより沢山のゴミが漂着します。船から海中に投棄されたもの、対岸の韓国から流れ着いたものなど様々です。

また、山口県と対馬が同緯度に位置し、対馬がなければこれらの国際ゴミは山口県や島根県の海岸に流れ着くことを知りました。また、色々な漂着物を見て、誰もいない所で捨てたゴミもこの様にして環境を破壊し、どこかで誰かの迷惑になることも学びました。



海岸でゴミの種類を調べる風景

8月22日(木)

対馬の最北端の上対馬町・鰐浦(わにうら)という所に約50km離れた韓国の釜山(プサン)の街が望める“韓国展望所”という観光スポットがあります。

残念ながら、私達が訪れた日は対馬にとって数週間ぶりの雨で、韓国を見る事が出来ませんでした。

近くには、「朝鮮国訳官使遭難追悼碑」が建立されており、ここにも歴史で学んだ対馬と朝鮮の交流の足跡を見る事ができました。周辺はヒツバタゴ(別名はナンジャモンジャ)の自生地だそうです。



韓国展望所



万関橋

帰路、国道382号を南下し、途中の万関(まんぜき)橋でトイレ休憩をしました。

ここは1900年(明治33年)に旧日本海軍が艦船を通すために開削した人工の水道に架かる橋で、対馬の上島と下島を結ぶ橋です。

初代の橋は明治33年に架けられ、2代目は昭和31年に架けられ、今の橋は3代目で平成8年に架けられたもので橋長210mだそうです。

22日の夕刻、定刻通りに宇部市役所玄関前に帰着しました。

バスや船を乗り継いでの長い旅程なので乗り物酔いや、炎天下の痕跡調査などの野外活動で熱中症が懸念されましたが、全員、楽しい思い出を抱えて元気に戻りました。

玄関前で、白石市民環境部長さんや家族の皆さんの出迎えを受けて解散式を行い、それぞれ帰路につきました。



宇部市役所前で市バスを背景にした集合写真